

でも指導してほしい。もっと厳しさもあってもいいと思う。

勅使塚、永代遺跡そして安居窯跡の3ヶ所とも、おもむきの異なる遺跡であり、今まで以上に興味関心を持った。小杉の丸山遺跡、規模が小さいが姫中町吉谷の炭焼き跡などとともに急斜面での発掘であり、作業は体の安定性を保持し、掘り進み、深さの維持、そして出土品の処理等をするむつかしさと困難さのある内容であった。

しかし、出土品については非常に多く、登り窯跡であり、すばらしい模様の作品や焼き口らしさを感じられる場所の発見が出来る等、収穫の多い体験であったと思っています。また、出土品の中には割合に大きい作品も発見され、その時々の喜びにより、暑さを忘れさせる作業になったと思い感謝しております。

何しろ、3カ年の発掘作業は、それぞれ特長をもった場所であり、体験者として、今になって場所の選定のむつかしさを強く感じ、担当の方々のご苦心を今になって理解出来るとともに体験ボランティアの重要性をしみじみ感じ、心から感謝し、明くる年度への期待と再会を夢見ているのであります。

年令にかかわらず多くの人に参加していただき、旧をしのぶ事も良い事だと思います。

10日間の発掘で、一生懸命作業していたと思っていましたが、説明会に行ってみると、深く広く掘り下げられ、窯の全体が見られるようになっておりびっくりしました。私の作業など表面の表面をなぞていただけだとわかり、おかしくなってしまいました。

新聞に写真が載っていた「土馬」を見せてもらいました。「大きくて立派。県内で最も古い部類に入る」という記事に、うれしく思いました。出てくる時、作業していればもっとよかったのにと残念です。

雨の日拓本づくりをさせていただきました。石碑や土器に直接墨を付けることはないとは思っていましたが、どうしても版画を連想してしまうので、今回やり方が少しあまり、よい勉強になりました。家に帰ってからよく乾かし、額に入れて飾っております。

9月に入ってアンコール遺跡で10世紀のクメール陶器窯が確認されたというニュースが新聞に出ていました(96 北日本)。写真を見て「ああ、窯跡だ」と思いました。安居の発掘に参加させてもらったおかげで新聞の写真もよく見えるようになりました。

勉強好きで黙々と作業される方々がたくさんおられることを知り、感心させられてばかりいる体験講座です。

先日、世界四大文明展を見学して来まして、古代文明の先進地域(共通点一大河の流域、乾燥地帯)に立派な都市、建造物、法典、道具等が現存しており、日本の縄文時代にこんな立派な文明がとあらためて感動を受けてまいりました。

島国であり、温潤な気候に「昔は大陸の端にあり、もっと熱帯に近い気候であったかもしれない」恵まれた日本は長い原始時代を過ごしていたのが何とも不思議な気がいたします。縄文、弥生、古墳時代それぞれの発掘体験をしていただいて、古代の埋もれた文化、日本の古代人の生活がちょっぴり自分の手でふれられた気がして嬉しいです。

早いもので、3回目の体験発掘になり、今回も楽しく掘らせて頂きました。技術的には少しコツを覚え、以前よりうまく掘ることができるようになったと思いますが、如何だったでしょうか。

発掘に直接参加することで、その時代がすごく身近なものに感じられます。土を掘るのはしんどい作業ですが、そこから何が出てくるかとても楽しみで、それが発掘調査の魅力とも言えると思います。そして、発掘によって新たな事実を知ることはとても楽しい事だと思います。



仕事の関係であまり参加できないのが残念ですが、これからもできる限り参加したいと思っています。

前回も書きましたが、10日間という限られた期間ではなく、迷惑でさえなければ、発掘調査の期間中はいつでも参加させてもらいたいなあと思います。

今まで古代人の生活とは簡単な竪穴住居に住み、手作りの矢じりで獲物をとって生活していたという昔の歴史にある知識しか私にはなかったのですが、最近どんどん発掘が行われ、いろいろな情報が入るにつれて、基本的なものは現代とあまり変わらない生活に驚きを感じています。知恵と工夫でかなり進んだ生活をしていた様子を知り、歴史をもう一度振り返っています。今年の登り窯なども今の登り窯と大差ありません。

遺跡についても何にも知識を持っていませんでした。0地点から出発したこの発掘で、須恵器と土師器の違いや、縄文から竹ぐしでつける模様、今回のたたき目など、時代や地域によってそれぞれ特徴のある土器に触れ、私には一つ一つ新しい知識と発見を得ました。他人から見ればこれくらいと思われること、こんな簡単なことと言われることも私にとっては満足しています。ただ今回はかなりの暑さにちょっとバテ気味でした。でも、そういうできない経験をさせてもらったと喜んでいます。

今年の講座には期間中であまり多くの回の参加が出来なかつた事で、申し訳なく思っております。

自然地形を利用して事でちょっと足場が悪かったと思います。でもうまく利用して合理的に出来ていると思います。袋に土を沢山入れて運ぶのが、ちょっと重くて大変だった（腰が痛くなりました）。

私はボランティアは10時から3時までの間だけ気楽に掘らせていただいていましたが、ここまで準備されたスタッフの方々は大変だったと思います。ボランティアがかえって足手までいなっていましたが、申し訳ないみたいでしたが、おかげさまで楽しく、他のボランティアの人たちとも和気あいあいとやっていけました。是非来年もやっていただきたいなと思います。

山の斜面にすでに足場や階段などが作られており、事前準備の御苦勞に感謝しながら掘らせていただきました。

事前の説明会で説明していただきましたが、発掘の方法も詳しく説明して欲しいと思いました。回りの方は常連の方ばかりな様子でしたが、私のような初回の者にとってはどうすればいいのか分からず、結局隣に掘っている方へ教えてもらったのです。

ボランティアなので意志がある方の参加は好ましいと思いますが、常連の方々ばかりのように思われました。もっと、若い年代の方々にも参加してもらえるよう時期など再検討した方がよいのでは・・・と思います。

私のような三交代で1ヶ月先の勤務の事もよく分からぬものにとって、「この日に講義を行います」と通知がきても、すぐには動けなかったり、勤務の希望がしめきられたりしています。もっと早いうちから開催のタイムスケジュールをいただきたいと思いました。

「発掘体験をしている」といろんな人に言ってみると、「やってみたい。」という答えが必ず返ってきました。誰しも一度はやってみたいことの一つなのかもしれません。だから、受講者募集のパンフレットをもう少しいろいろな場所に置いてよいのではと思いました。（私は、サンシップを利用していて偶然手に入れることができました）。しかし、人数が増えればいいということでもありませんが。

自分が暑さに弱いのと虫に刺されやすいと言う理由だけですが、発掘の季節はやっぱり夏しかないものなのでしょうか。冬は論外ということはわかりますが。



## 4 平成13年度

### A 発掘調査を体験した印象

土の色の違いが私の目にもわかるほどはっきりしている所があり、くぎを使ってすじを引かせてもらいました。すじを引くと更に土の色の違いがはっきり見えるようになりました。地層の違い、土の色の違いで、土器の出方が明らかに違いがありました。床の下からは土器ではないし、表面の草が生えているところからも土器は出ないことがわかりました。床の面にたくさんの土器、高つきなどが出て来て、住居を廃棄するときの様子がうかがえました。

今私達の生活しているすぐ足元に古代の人たちの足跡が鮮明に残されていることに感動し、同じ所で年代の違った住居跡が見つかった事、又、多くの土器の発掘に驚きました。

縄文時代の温暖な気象と高水位だった地形をイメージしながら、その当時は激高地だったろう場所にどのような生活をしていたのだろうか。等と土の中から出てくる土器に思いをはせさせておりました。今回は、すぐそこが海で古い時代から生活が最適に位置する射水丘陵の遺跡調査で、旧石器時代から縄文、弥生、平安時代までの複合遺跡であり、何百年の歴史に想いを寄せての発掘がありました。このため堅穴住居も立て替えなどで重なって検出され、なかなか解りにくいためありました。遺跡の管理状態もあまり良くなかった為か、土器の破片が多く出てくる中で古墳時代の甕や高杯などはほぼ完全な形で発掘された時は感激しました。

今回の発掘ではかなり大きな高杯の土器がたくさん出土し、しかもほぼ全形のまま出てきたのに感動しました。少しづつ土の中から顔を出し、だんだん広がっていく土器の面を見ながら掘り下げていくあの嬉しさは発掘を体験したものだけが味わえる感動です。祭祠用・供物用? どんなものがこれにのせて供えられたのかな等々思ひながら出土した土器を何度も手でなでていました。

今回、調査に参加した場所は、縄文と古墳時代の複合遺跡ということで、興味を持って臨みました。はじめ、縄文遺跡の方からは遺物がたくさん出てきて楽しかったのですが、古墳時代の遺跡では、僕に割り当てられた場所は出土物が比較的少なく、一寸物足りない感じでした。また、現場の広さの割には限られた場所でしか掘ることができなかつたことが心残りでした。縄文遺跡の方をもう少し掘らせて頂きたかったです。

今年度の調査は9月25日から10月4日までの期間であったが、その間の日程の都合が付かず、調査体験することができず、大変残念に思っています。しかし、最初の説明会や最終講義に出席し、多くのことを教えていただき、大変よい勉強になりました。特に焼土や出土品から住居跡の様子や配置から、当時の生活が推察され興味をもった。

今回の中山中遺跡は弥生から古墳時代初期までの集落遺跡で数株の堅穴住居跡が発見された丘陵の北斜面を対象にした発掘体験であった。出土した遺物は土器で、今までの体験時より数多く、そして割合大きいものが掘り出せた。出て来た遺物が大きいので、掘り出したものを組合せても完成は出来なかったが、出来上がりのものの概観をとらえる事の出来るものもあった。そのため、慎重に掘り進んで時間はかかったが、なんとなく楽しく、時間を忘れての体験であった。

戦後、瓦業を営んでいる頃、当太閤山周辺を良く作業に行きました。其の頃、たくさんの遺物を見ました。今に思う時、ここだったんだと再確認しました。

縄文時代に地球の温暖化がすすみ、今は陸地だった部分も海面におおわれたという事を、中山中遺跡から小杉町方面を見下ろしながら現地で話を聞く事により、古代に対する想いを感じられた事。こんな身近の民家のある所に遺跡があり、おどろいた。

今年初めて参加させていただきました。以前から希望していたのですが、募集期間が終わっていたり、仕事の都合で、できなかつたので念願がかないました。年輩の方が多く、また皆さんから熱意を感じられましたし、土木の業者の方、埋文スタッフの方、そしてボランティアの者・・・チームワークの大切さを感じました。土を掘る場所を決めてもらい、少しづつ掘り、土の色を見てまた進めて・・・地層の確認、写真とり・・・推測と実証をくり返す地道な作業だということが少し分かりました。けっこう土器片が多く、新鮮な感動がありました。

中山中遺跡は元小杉高校の農場跡だったとか、戦後食糧増産で何処でも開拓された記憶がありますが太閤山は山林と畠地だったと思います。縄文時代は狩猟をし自給自足の生活だったのでなやすく得る事の出来る地、森あ

り遠くに日本海の海も近いし純文人も現代人も住んで生活する立地条件として見晴らしの良い高台を選ぶ事を知りました。

今回の発掘体験と過去の部分的な調査（細切れの調査という印象を持った）を含めても、遺跡の全体像が把握できなかつたのではという思いを持ちました。県下での数少ない古墳時代の遺跡の発掘調査に意義を感じたものの、それなりの成果があつたのだろうかという不安な気持ちを抱きました。また職員のみなさんの多忙を窺い知るなかで、私たちの作業が足かせとなつていいだろうかという思いを強く持ちました。指示どおりの作業のなかで、漫然とした気持ちのこともあり、推測や検索する余裕を持てなかつた非力を感じました。しかし古の遺物との出会いに喜び、触感に感動を覚えるなど楽しい体験だったと思っています。

今までの発掘とちがつて、多くの土器、破片、自分の手で掘れたので感慨ひとしおでした。今日（最終講義）もスライド、現物を見せていただいて住居跡が重なつていたという事実、小杉町のあのあたりは住むのに好都合だったのでしょうね。かわいい土偶、古代人の祈り、思ひがひしひしと感ぜられて心豊かになりました。あのようにくわしい資料をいただき作成の大変さも又反面おもしろさもわかりました。

## B 埋文ボランティア発掘体験講座に参加した感想

初年度から4年間の発掘の間に何度も何度も“きれいに掃除”をしてきましたが、初めの頃“掃除”的意味がわからず掃除をしていました。土の色がはっきりわかるための掃除だということがわかり、はけで美しく掃除しても意味のないことだと納得できました。発掘中次々と大きな土器が出て来て、形も整って、ほぼ完全な形で出て感動しました。出てくるところはまとまって次々とたくさん出土して、毎日とても楽しい思いをしました。

高校時代に遺跡の発掘に参加した楽しかったことを思い出し、今回の発掘体験に又参加させて頂きました。発掘しながら、何が出てくるのだろうと胸をわくわくさせて土器の一刃を見つけると、頭の中には完全な土器の形が思い浮かべては消え、又、新しい形を想像しても楽しい時を過ごさせていただきました。

遠い時の流れが、今の私達の生活につながっている事や、人々の知恵で作り出されてくる住居の工夫なども見えてくるのが分かりました。

発掘体験をしながら、その地域の歴史が明確にされていく一たんのお手伝いが出来ることに喜びを感じております。出来れば発掘した遺物もつなぎ合わせて見たいと思います。

発掘体験講座が4年目にて、漸く調査隊員証を頂き自己満足し、すこし鼻を高くしています。1年間10日間の参加がありますが、いろんな発掘を体験させて頂き難うございます。

勅使塚古墳には参加できませんでしたが永代遺跡、安宿の窯跡、そして今回の中山中遺跡と三回参加させていただきました。永代遺跡ではすてきな文様の土器がでてきた時の感動、竹ぐしを使ってゆっくりまわりを掘っていくことやうきで土をおとすと文様がはっきり見えて大変うれしかったこと。又ここでは柱の跡を掘る際、土の色が変わるものと言っていたが掘っても掘っても何の変化もなく、しまいに体が逆さまになるまで掘った時、土の色が変わつた。ほんとうにうれしかった。なんと深い柱の跡。又、安宿では須恵器、高温で焼いたかたい土器、縞の模様が美しい。たたくと音が高い。今あるのほり窯と大差がないのに驚いた。そして今回、高杯土器の全形で出土。よくもこわれず埋まつたものだと感心した。3回、それぞれの特徴があり、一つ一つすること



なすことが初めてで大変勉強になつたし、一日一日が楽しくいろいろとの交流もできました。

遺跡の発掘は、そこから何が出てくるのか、掘っていてワクワクするものがあります。まさに宝探しです。掘り上げられた出土遺物に触れることで、その時代の生活を垣間見たような気がし、身近なものを感じられます。古代のことは分からぬことばかりですが、遺物を掘り上げることで、古い時代の解明に少しでも役に立てればいいなあと思っています。遺物を掘り上げるばかりが発掘の仕事ではありませんが、土の中からめぼしい出土物が見つかると、それが発掘ボランティアに参加していることの喜びにつながります。また今回は、初めて出土物の洗浄を体験できて良かったです。

小杉町中山中遺跡の説明会や講義に参加して、よい勉強になりました。平成10年度には古墳時代前期の勘定塚古墳を、平成11年度には绳文時代中期の上市の水代遺跡を、平成12年度には7~9世紀の安居窯跡群を、そして今年度は旧石器時代から奈良時代にかけての遺物が出土している中山中遺跡の発掘調査などに参加できました。この体験から発掘の仕方や、年代を異にする出土品のちがいなどを教えていただき、新たに学ぶ点が沢山ありました。また、各年度に、多くの資料を戴き感謝いたしております。そして、大切に保存しております。特に今年度の講義で土器や土偶の図面の書き方を教えていただいたのが良かったです。

埋文発掘ボランティア体験も4回を終了し、振り返れば1回目は福井県の勘定塚古墳、2回目は上市町の水代遺跡、3回目は福野町の安居窯跡群そして今回は小杉町中山中遺跡と県下各地とも言えるような地区を巡回しての体験で、森林の中での仕事、畑地での発掘、暑い真夏での作業、見はらしの良い場所での仕事であった。発掘では遺物がほとんど出土せず、木の根の除去にあけくれた重労働で手間のかかる場所、また、出土品が割合に多かったが遺物が非常に小さく出土品に対する喜びと期待にはほど遠い感を感じた。しかし、今回はもっと多くの出土品があり、しかも大きい土器が多く、掘りながら頭の中で組合せ、形を創造しながらの発掘で本当に楽しさと喜びを感じ時間の経過を忘れるくらいであります。埋文に対する関心が高かったので、この体験は非常に良い学習の機会であったと思っています。

1日しか出席できず残念であった。昨年と違って体調中もさむく、つらかった。

2日間のうち初めはまったく要領も分からず緊張してしまいましたが、また相方の人に連れたり、スタッフの方に手伝っていただいたら、とにかく腰も痛かっただけで気落ちしましたが、ボランティアの方々から色々と教えていただき、発掘の楽しさを少しあはることができます。

発掘作業の全体の過程を体験することなく部分的な作業として、また短期間のためか作業の慣れにも至らず、中途半端な思いをすることが多かった。とくに自分の作業が発掘全体の、どの位置にいるかの把握が出来なかつた。質問するだけの知識もなく、また多忙な職員への迷惑もあった。今回4度目の発掘体験であるが、経験を積んだという実感が湧かなく、半人前以下の状態であるという認識である。努力不足は否めないが、もっと期間を増やして欲しいと感じている。

過去勘定塚古墳、水代遺跡、安居窯跡、そして中山中遺跡と参加させていただき、大変貴重な経験をいたしました。出来るなんて思ってもいませんでしたので、自分の手で過去を見つける昔の人々の暮らしを知る自分の足元に土器を発掘出来た時は嬉しくて大きい声で「あった」と呼びました。一生忘れられません。



## 5 平成14年度

### A 遺物整理を体験した印象

“たかが土器、されど土器”見ること、することが始めての体験でしたので興味津々で参加することができました。いろいろな道具（キヤリバー、マコ、デバイサー）が充分に使えず何回も失敗、特にマコの使用が難しくすぐに切れてしまいました。昔のすき猫の形、おもしろく思いました。アドバイスを受けながらどうにかカーブを書くことができほっとしました。根気と努力そして計り知れない研究心がなければ続けられない分野だと言ふことをしみじみ学ぶことができました。

実測はマコなどの道具のおかげで思っていたより、作成が簡単にできたように思われた。拓本取りは、和紙の貼り付けが難しく、特に壺や壺などの口縁部で湾曲した部分の貼り付けが大変だった。また、拓墨の濃度が始めはうまく加減できなかったが、回数を重ねることによってある程度、克服されたように思われた。

自分達の手で握った遺物のかけらを実測し、図に表すことの難しさを実感すると共に小さな遺物から全体を想像し、特に曲がりや、蓋、口など、それに基づく拓本、トレースと精密な作業をする中で長く保存されます。ですから過日のねつ造等は初期に解りそうなことがどうして数回も繰り返されたのか残念です。

実測で私は溝が細く、穴の開いている物をやりました。使い慣れない道具で1本1本線を測って、図に移していくのは大変でしたが、その分断面図や拓本でおもしろい表現ができる良かったと思います。今まで何気なく見ていた遺物の図も、1つ1つとても手間のかかる作業をへて書かれていることが良く解りました。

現在通信教育で学芸員の資格を取るために学んでいます。スクーリングの時、博物館実習で拓本の取り方を行いましたが、計測やトレースの書き方までは学ばなかったのでとても参考になりました。また、改めて職員の方々の仕事の多さや苦労されていることを再認識しました。

土器の実測に使う道具がいろいろあることを知りました。土器の膨らみ、曲がり具合、厚みを書く道具などうまくできている。しかし扱いは難しくまだままであります。実測図で断面を書いていたり、拓本を取ったり、トレースに写したり一応、一通りの流れを体験できました。断面図では傾きや小さな土器の凹凸が土器の部位や、文様まであらわされていると知りました。報告書の中で一番さっと目を通すだけだった実測図を土器の姿を連想しながら楽しんでみると事ができるようになりました。口縁部の土器の断面は傾きを調べるのが難しかったです。



説明を聞いて遺物整理をしたが、まず土器を手に取った時、なにをどうやってするのか解らなかった。しかし個別指導のおかげでいろいろの道具を使って土器の断面図と形を書くことができた時は嬉しかった。遺物整理について、発掘された遺物が書面に表れるまでのいろいろの行程を体験できました。大変な作業で、それも細かい手作業であることもよく解りました。これから報告書を読む時、こんなことも考えてみるようになると思います。

遺物の実測などの作業は、緻密さが求められ一寸手こずり大変な仕事と思った。経験も必要だがセンスの持ち合わせも大事だと感じた。携わる人たちは、多面的な感性の持ち主だろうとあらためて敬意を抱いた。

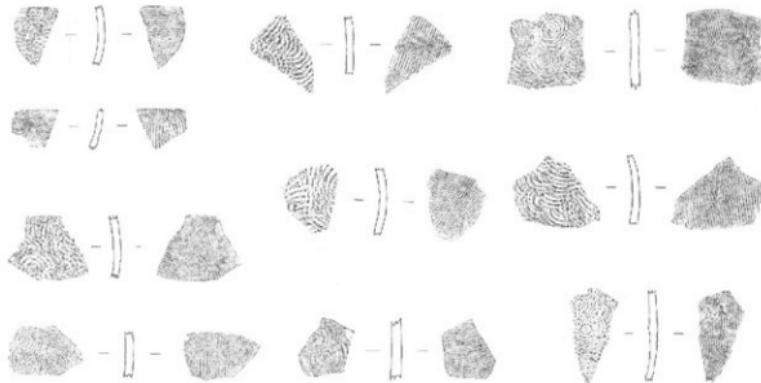
作業を体験する中で、遺物関係資料の理解を深める大きな参考になったと喜んでいた。体験の必要を実感した。

今回は遺物整理の中でも実測してトレースするという作業でしたが、実測で難しいところは、断面図の書き方でした。土器の破片が全体のどの部分か、どこを断面図として取るか、傾き、屈曲、厚さを正確に測り取ることです。マコで形を写し取る時もすぐ針が動いて困りました。今日は凸凹や屈曲の少ない小さな破片を実測しましたが、文様や湾曲の複雑な物だったらどうだろうと思ってしまいます。本当に良い勉強をさせてもらいました。

4年間の集大成とのことで発掘資料の報告と結果報告のための遺物の実測、拓本、トレースを経験させていただきました。報告書刊行には遺構の図面、写真整理や遺物の水洗いに始まり、注記、接合、復原などそして今回学んだ拓本、トレースなど、最後に版組・原稿の鉛筆・編集など多くの作業があることを学びました。

今回の資料整理はほんの一部の作業でありますが、根気のいる細かい作業で短時間では完全には習得できませんでしたが、パンフなどの実測図から土器の器形、文様を読みとる術を学びました。また、遺物実測にはマコやキャリバー等の使用や拓本のためオリジナルタンボや墨のことも知りました。

この作業の経験が無く、常に精密かつ正確さが求められる大変な仕事であることを痛感すると共に、この仕事の大切さと重要性が理解された。出土した遺物には同じ物は1個もなく、それを記録保存するための実測図の表現は責任を感じ、相当の経験とテクニックがなければならぬ。私はその作業に入るには、その手順をしっかりと



ボランティアのみなさんの実測図（安居窯1/6）

理解することと器具の扱いがしっかりとできなければならず、実測のためのマコでの型どりが、なかなかできず、消したり書いたり繰り返しで時間の経過が気になり、説明を聞いてするがいざ表現となると何からどうするか解らず、誠に情けない思いをした。しかし、何とか2枚を作成できてほとした実習であった。

今回は2日間しか参加できず、休んだ分を体験できないと残念に思っていたのですが「実測・拓本・トレース」と一通りを数は2つだけでしたが、遅れているにもかかわらず、指導いただきながら体験させてもらいとても勉強になりました。同年代の方に一人だけ会え、お話をすることができます。

## B 埋文ボランティア発掘体験講座に参加した感想

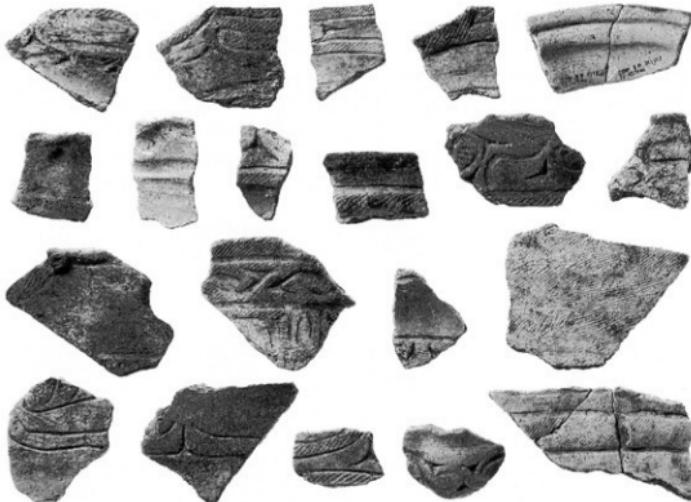
平成10年から4回にわたり発掘に汗を流したことが非常に懐かしく、今振り返っています。勤使塚古墳に始まり、小杉町の中山中遺跡、学問的に充分に解らないまま、「なにが出てくるか」「自分の手でどんなものが掘り出せるのか」常にわくわく、ときどきしながら通ったものです。

①勤使塚古墳 我が地元にある県下第一の古墳と思っていたが、この年氷見市布尾山古墳の発見で一位の座を明け渡したということで残念に思った。発掘調査によって造成期は3世紀末頃と確認されたことは意義があったと思います。発掘現場で土層がはっきりしていることに驚いた。事前の予備調査結果が余り正確でなかったことと、頂部の発掘で墓坑を全部発掘されるものと思っていたが、墓坑の所在を確認しただけだったのが残念でした。

②水代遺跡 縄文中期の竪穴住居がいくつも発見されたり、遺物もたくさん発掘されたことに驚いた。遺物の取り上げに余り参加できなかつたのが残念でした。

③安居窯跡 我々素人には弥生から古墳時代のものと思われたが、7世紀前半～後半の窯跡ということでした。たくさんの土器片の大部分は2号窯の7世紀後半のもののこと、その判別は職員の説明で理解できた。この頃の人口はどれ位あったものか、全部この地の生活必需品として利用されたものか交易に利用されたものか、興味のあるところでした。私達の姉妹負にもあんな窯がなかったかと思います。

④中山中遺跡 平地近くの遺跡で、土器片は布尾山古墳や勤使塚古墳の構築期のものが多いとのこと、その下にあった竪穴住居もし少し時期がズれて重なっていることを職員の方に聞いて感心したが、素人には判断は難しいと思った。



私の住む越中町は古利各願寺を中心とした王塚・勅使塚・五ッ塚・六治古塚と国・県指定の古墳が多数点在するところです。子供の頃から誰のお墓でなにが埋められているのだろうと思いつつ暮らしていました。(特に松本清張の本の中で盗掘する場面などを読んで)ですから第1回目の勅使塚古墳の時は進んで参加しました。でも最後まで確認できなかつたのが心残りです(時代的に各願寺の勅使ではなく、地方の豪族の墓と解ったのが成果でした)。その後永代遺跡から今まで皆出席ではありませんが、参加することができて喜んでいます。その間各地の現地説明会にかけました。六治古塚は四隅突出型墳丘墓で遼く山陰地方の鳥取県と繋がり私達の先祖も卑弥呼の女王と関わっていたとの発想は次から次へ楽しい。シンポジウムも受講しました。確かに日本海側は中国や朝鮮の国に近く影響も大きかったと思います。その内で桜町遺跡・婦中町中名遺跡の井戸を組んでいた木材(水を含んだ木材)は数千年を経ても腐らないという事実を知ると共に感動しました。先日、猿から類人猿(人間の誕生)の化石が発掘されたとの報道を聞き、また私の好奇心が動きました。物のあふれる現代に生きる私は幸せですが、縄文を始め古代人のように物を想像と創意工夫する力、堅穴住居に大家族が仲良く暮らす親子の絆が育っている昨今を憂える者ですが長生きをして未知が一つでも開かされることを望みます。

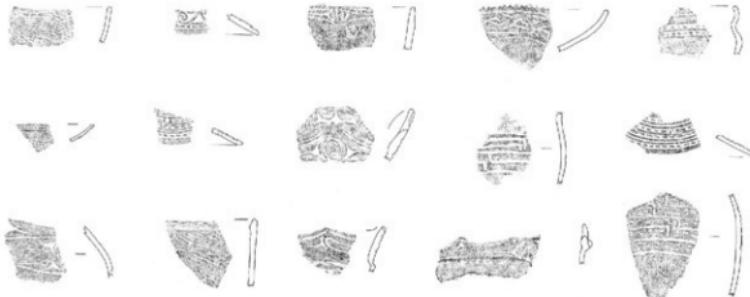
遺跡を掘ったこともなければ、遺物に触ったこともそれまで1回しかなかったので、発掘の進め方、使用する道具など珍しいことばかりでした。しかも状況が毎日変化して出てきた。遺構や遺物の説明を受けながら何千年前に住んでいた人々の生活を想像するのも楽しいことでした。職員、ボランティアの方々も世代はいろいろですが、明るく良い方ばかりで現場での作業もとても楽しかったです。また掘るばかりではなくて遺物整理も体験できることで埋蔵文化財がより身近に感じられ、関心も高まりました。参加できて本当に良かったです。

時々、埋文センターに展示品を見に行きますが、来館者が大変少なく、展示品や展示方法について批判的な目で見えていました(なぜ人を引きつける力がないのかと)。しかしここ数年発掘体験や遺物の整理に参加させていただき遂の立場として、展示に至る経過を知り、作業の大変さを感じることができたし、私の勤務する病院もかつては方形周溝墓がみつかったことは興味がなければ知り得ないことです。もっと一般の人にも興味を持ってもらえるよう埋文ボランティアの事をPRしていく必要があると感じました。

平成10年の第1回より5ヶ年延べ50回近くの講座受講は本当に楽しいものでした。またパラエティーに富んだ体験でした。中学生の頃、前方後円墳という言葉を習い仁徳天皇陵(?)の航空写真を見た頃はただ教科書中の記述にすぎなかったのに、勅使塚古墳の発掘に参加でき古墳というものがぐっと身近なものに感じされました。

平成11年の永代遺跡、13年の中山中遺跡では堅穴住居が確認され多くの土器が出土し、毎日がわくわくの連続でした。出土土器の多さにも驚かされましたが、文様の美しさにも感動しました。土器の手ざわりや文様の描き方、出土する地層などから時代の特徴などが読みとれるという事です。

平成12年の安居窯跡では1層掘ってもう土器が出なくなってしまった、この下に土器の出てくる層があるはずだと言われ更に掘り進めると予想通り多くの土器が出てくる層にあたりました。窯の焚き口を調査しようとやや深く掘り、焚き口が確認されたのには驚きました。ちゃんとした予測を基に実際に確認されるのがすごいと思いました。今回、遺物整理と聞いて土器の洗いや接合の作業と思いましたが、土器の実測や拓本・トレースなどさせてもらう事になりました。どの作業もやはり難しくなかなか作業は進みませんでした。今はいろいろな映像や機械によ



ボランティアのみなさんの実測図 (中山中遺跡1/6)

る実測図もあるとの事ですが、実測図を手書きする事で実測図の意味も解るようになりました。なにも解らず見過ごしていた実測図から土器の様子が目に浮かぶようになりました。

縄文・弥生・古墳時代は主に教科書での学習だったものが、発掘の体験によって学ぶ事がたくさんありました。地面を掘り泥を運ぶのはつらかったが、初めて土器がみつかった時の感動は今も忘れない。出てくるかなと思いつつ掘り続ける気持ちは、体験したものでないとわからないと思う。勅使塚古墳で発見された美しい赤く塗られた壺は忘れられない1つである。2年目の永代遺跡では、縄文土器にいろいろの文様がある事も知りました。堅穴住居を発掘した時、深い柱穴や火をいたい炉跡、実際の大きさを見て古代の生活に思いをめぐらす事もできた。三年目の安居窓跡（沂所でした）でおもしろく感じたのは山の斜面での登り窓の構造、7C中頃との事だが、この方法は現在にも受け継がれているとの事。私は登り窓は中世以降のものと思っていた。そして須恵器の製作技術にも驚いた。同心円の当て具を裏に当てて叩き板を使っていく技術と、その土器の文様が美しい。モダンな青海波の文様が裏側である事も学んだ。こんな文様の土器の大きい破片がみつかった時は大きい声で喜んだのも懐かしい思い出である。4回の発掘に参加して身体的な事を考えると、大変良い時にボランティアに加えていただき感謝の気持ちでいっぱいです。腰や腰痛がでてくる加齢による老化はこのあたりが限界のようでした。ボランティア体験講座のために事前の準備や発掘中の親切、丁寧な指導にも感謝しております。新たな出会いもあり楽しい思いをさせてもらい、有り難うございました。

人はそれぞれ考古学に興味を持つ動機があると思います。それは年間2,000件以上の新聞報道による最近の考古学ブームにのってか、あるいは古代のロマンを求めて、人類のルーツを求めてか、原始社会は、などに关心を持ち勉学のためか、また考古学に関連する諸科学、社会学・生物学・工学・科学など幅広い分野に引かれてかはいろいろな説があると思いますが、5年間の埋蔵ボランティアを終えて自分がなぜ考古学に興味を抱いたのか答えを見つけました。自分がなぜここに生きているのか？死を意識し死後の世界の観念は？とは宗教の世界です。キリスト教では死後は天国に、仏教では極楽か地獄へ、そして輪廻の思想を幼少の頃から教えられ、現実主義の私としては、本当に極楽・地獄の存在が死後の世界の観念として疑問に思っていました。この5年間、縄文ボランティアで古墳や遺跡を発掘して、現在も残って発掘されるものは石器・土器のみの無機物で、骨や木材の有機物はほとんどが地中で分解され、朽ち果ててしまう事を知りました。また、いまだに人類の出現・進化も良く解明されていませんが、人が二足歩行を始めたのは400万年前とか、漸く動物などで人の生活の様子が読みとれる縄文時代より一萬年の歴史の中で自分の人生が70年の一瞬である事を知り、この長い歴史の中にいざれは私の存在も、埋没し忘れ去られると思われます。極楽・地獄の存在を信ぜず、悲しい事でありますがあいざれ朽ち果て無になると悟りました。また、一万分の70の人生を今さらあくせくしなくともとの心境になりました。

自分のルーツは？誰でも一度は疑問を持つ問題です。普通は五代前までは何と無く解りますが、それ以上の解明は困難です（平安時代より家系図がある場合も聞きますが、たかだか千年の歴史）。石器時代、縄文時代、弥生時代には必ず両親がいて現在の自分がいると思います。そう思うと宗教でなくとも考古学的に先祖の大切さも理解できます。以上の三点を知るため考古学に興味を抱き、何となく自分の人生観として結論を得ました。ただ、勅使塚古墳の発掘調査で、埋葬等の内部構造の発掘が途中で終わった事が残念です。もし機会があればぜひ参加させてください。

1年目の勅使塚はわが郷土の史跡として「王塚」と共に前方後円墳として学んだと思うが、その確認調査で



非常に重要な発掘体験であった。まず、古墳の四隅の確認と設定されたトレチを掘り進んだ。その付近は樹木が多くなかなか作業が進まず、その上出土品が少なく、破片で遺物かどうかわからないような状態であった。しかし、他から昔の豪族が利用したと思われる遺物が出土した。古墳時代の赤く塗られた壺や蓋であった。このように作業を進め、前方後方墳である事が確認され、私に新しい歴史を与えてくれたと思います。また、埋葬施設を掘り進み、主体部の位置を確認されたのはすばらしい事で、調査の目的が達成され嬉しく思った。

2年目は上市町の永代窯跡。上市川の河岸段丘上の平地での堅穴住居及び縄文中期の土器などの発掘であった。場所は段丘上のため川風がそよそよと吹く中で楽しく作業に入り、石器や土器を多く掘り出す事ができて心地よく作業を進める事ができた。しかし、堅穴住居の確認ができたが、婦中町千坊山遺跡で大規模な集落の姿を見ていたので、それほど期待していなかったが、一棟の位相が自分の目で確かめられることで楽しく作業ができた。何しろ遠い上市町であったが、同人とゆっくり語り合い、車で走りながらその日の出土遺物に対する意見を交換した。作業は平坦な畑で、安逸感を持って進める事ができた。

3年目は福野町小矢部川左岸丘陵地の山側の安居窯跡の発掘であった。私達がいった時にはいくつかのトレチが入っていた。山の斜面地にある窯跡で、体を支えながらの作業は窮屈であった。出土遺物は須恵器で、非常に多くの鉢・高杯・甕・壺があり作業を慎重に進めるために集中力と時間がかかった。しかし、窯跡という感覚が体験できず、この付近に多くの須恵器が散布しているように感じられた。一号窯とのことでしたが、私自身窯本体を見たことが無いから想像することができなかった。今回は出土品が多く楽しみながら進めることができた。3年目になると会員との親しみも生まれ、別の喜びを感じ始めていた。

4年目は小杉町の射水丘陵の見晴らしの良い場所で、すでに宅地化が進んでいた。場所は、通勤時間もそんなにかかりず、作業も平坦なやりやすい畑地であった。出土遺物は、縄文土器・古墳時代の土器が多く、しかも大きい破片で形を残している遺物が出るたびに歓喜と慎重な作業へと変わっていた。中でも中規模と考えられる堅穴住居が発見され、永代遺跡とていてると感じられた。何しろ発掘範囲は幅が狭く、長いため総てを掘りきれなかったが、思い出にのける体験だった。この4年間にわたり各地で遺跡を発掘し、本当に埋蔵文化財に対する関心が一層高まると共に、他の遺跡と比較する余裕すら感じられ、本当にありがたい体験であった。そして熱く汗を流し、樹下で、丘陵の畠で、山林の傾斜地での作業は生涯の良き思い出になると思います。

昨年、念願の発掘体験にようやく参加できたものの、最後とお聞きしまして複雑な心境でしたが、まさか実測や拓本といった体験させていただけるとは思いも寄らず、嬉かったです。本で拓本について見かけたことはあっても、具体的にどうしたら遺物を汚したりせず、形態を写し取ることができるのか、少し理解できました。また道具を使うことで、立体的断面の輪郭を図り取りすることができることに驚きました。今後博物館で資料を見る際にも理解が深まり、さらに興味がわくこと思います。



# 報告書抄録

ふりがな	とやまけんほらんていあまいぞうぶんかざいほごかつどうじぎょうはくつたいけんこうざ ねいぐんふちゅうまちちょくしづかこふん・なかにいかわぐんかみいちまちえいたいいせき・ひがしとなみぐ んふくのまちやすいようせきぐん・いみずぐんこすざまちなかやまなかいせきはくつちょうさほうこく						
書名	富山県ボランティア埋蔵文化財保護活動事業発掘体験講座 婦負郡婦中町勅使塚古墳・中新川郡上市町永代遺跡・東砺波郡福野町安居窯跡群・ 射水郡小杉町中山中遺跡発掘調査報告						
シリーズ名	富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告						
シリーズ番号	第21集						
編著者名	上野 章, 酒井重洋, 中川道子, 青山裕子						
編集機関	財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所						
所在地	〒930-0887 富山県富山市五福4384番1号 TEL076-442-4229						
発行年月日	西暦2003年3月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 。' "	東経 。' "	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
ちょくしづかこふん 勅使塚古墳	ふちゅうまちはね 婦中町羽根	16362	031	36度 39分 11秒	137度 07分 08秒	19980803 19981016	
えい代いせき 永代遺跡	ふいもむちのじま 上市町野島	16322	030	36度 41分 56秒	137度 23分 29秒	19990806 19991002	富山県ボランティア 埋蔵文化財保護活動 事業に伴う発掘調査
やすいようせきぐん 安居窯跡群	ふくのまちやくい 福野町安居	16408	016	36度 35分 34秒	136度 53分 09秒	20000626 20000811	168
なかやまなかいせき 中山中遺跡	こぢまをないくちやく 小杉町太閤山	16381	035	36度 42分 27秒	137度 05分 56秒	20010903 20011019	241.5
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項	
勅使塚古墳	古墳	古墳時代初頭	前方後方墳	縄文土器, 土師器(古墳), 須恵器(古代)		3世紀末, 県内最古の 前方後方墳	
永代遺跡	集落	縄文時代中期前葉	竪穴住居6棟, 土坑	旧石器ナイフ形石器,縄文 土器,土偶,土製品,打製 石斧,磨製石斧,石礫		竪穴住居6棟 を検出,うち 2棟を調査。	
安居窯跡群	窯跡	飛鳥白鳳 古墳時代後期	須恵器窯2基, 円墳2基	須恵器,土師器,陶棺,円 面鏡,陶鍤,土馬		ロノ部1・2号窯 3・8号墳	
中山中遺跡	集落	弥生時代末~古墳 時代初頭 縄文時代前期後半 縄文時代晚期前葉	竪穴住居2棟, 円墳1基,溝	弥生土器,土師器,鉄斧, 鉄鎌,石鍤,縄文土器,土偶, 土製品,打製石斧,磨製石 斧,石礫,石匙			

2003(平成15)年3月20日 印刷  
2003(平成15)年3月31日 発行

富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告第21集  
富山県ボランティア埋蔵文化財保護活動事業発掘体験講座

平成10年度 婦負郡婦中町 **勅使塚古墳**  
平成11年度 中新川郡上市町 **永代遺跡**  
平成12年度 東砺波郡福野町 **安居窯跡群**  
平成13年度 射水郡小杉町 **中山中遺跡**  
**発掘調査報告**

編集・発行 財團法人富山県文化振興財團  
埋蔵文化財調査事務所  
〒930-0887 富山市五福4384番1号  
TEL. 076-442-4229

印 刷 とうざわ印刷工芸株式会社  
〒930-0008 富山市美濃本町1丁目8-13  
TEL. 076-432-3267